HIV感染者が抱える精神疾患とメンタルヘルス－その特徴と支援－

The mental health of people living with HIV in Japan

国立研究開発法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 小松 賢亮
Kensuke Komatsu

Summary

医学的進歩によってHIV感染症は長期療養が可能となった一方，メンタルヘルスの課題が指摘されている。本稿では，しばしば混同される精神疾患とメンタルヘルスの概念を整理し，HIV感染者のそれらの特徴と支援について述べる。

本邦のHIV関連神経認知障害に関する疫学研究（J-HAND研究）におけるエイズ治療・研究開発センター（ACC）のデータから，重度の精神疾患がないHIV感染者も何らかの精神的問題を抱えていることが示唆された。特に活力が乏しく，希死念慮・自傷行為などに示される自殺の危険性が高いこと，依存症には至らない程度の薬物使用経験者が多いことが示された。医療者はこれらの特徴に留意して，見えにくく捉えにくいメンタルヘルスの問題に対して多職種間で連携を図り，各職種の役割や立場を活かして支援することが求められる。

Key words

- HIV感染症
- メンタルヘルス
- 精神疾患
- 自殺
- 多職種連携

はじめに

医学的進歩により，HIV感染症は早期発見と早期治療を行うことで長期療養が可能となった。一方で，HIV/AIDSのスティグマ・差別偏見は残存しており，HIV感染者のメンタルヘルス（mental health）や生活の質（quality of life；QOL）に関する課題が残っている[1]。

メンタルヘルスとは

「メンタルヘルス」は，しばしば精神疾患（mental illness, mental disorder, psychiatric disorder）と同義に用いられたり混同されたりするが，その意味は異なる。精神疾患は抑うつ，不安，双極性障害，統合失調症などの状態で，人間の思考や感情，気分，行動に影響を与える「疾患」のことである。メンタルヘルスは感情的，心理的，社会的に良好な状態（well-being）を含意しており，いわば「精神的健康」，「心の健康さ」といった，より幅広い概念である[2]。メンタルヘルスには，幸福感や充実感，他者との良好な関係や自尊心，社会への所属感や貢献感などの要素が，良好な状態に保たれていることが含意されている[3]。そのため，たとえば，メンタルヘルスが悪化していても必ずしも精神疾患と診断されない。また同様に，人によっては精神疾患があっても身体的，精神的，心理的に良好な状態を体験している人々も存在する。

本稿では，これらの違いを含めてHIV感染者が抱えている精神疾患とメンタルヘルスの特徴と支援について述べたい。

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.